

(十一) 稲取の芝居引幕 いなとり しばいひきまく

町文化財 昭和五十六年三月指定

稲取に伝わる芝居の引幕は、横が約十メートル、縦が約三・五メートルの大きな幕です。幕には、おめでたい七人の神様として信仰されている七福神の絵が描かれています。また、左上に「稲取若衆中」、右上に「志ん上」「進上」をあらわす、右下に江戸日本橋の十六軒の魚問屋の店名が書かれています。

贈られた年などは書かれていないのでくわしくはわかりませんが、この幕は江戸時代終わり頃に今の東京である江戸の魚問屋から稲取の若者たちに贈られたものです。

引幕にある魚問屋のなかには、稲取出身の人の店名もあります。その頃の稲取は、たくさんの魚が採れ、この魚などを江戸の問屋に送っていたといわれています。この引幕は、このような稲取と江戸の魚問屋との強いつながりを今に伝えています。

